

全佛通信

五月号
 発行所 全日本仏教会
 財団法人
 東京都中央区築地
 三ノ木(本願寺内)
 電話 〇二九六九
 〇三一一三
 〇三三三〇
 振替東京 三三六〇〇
 〇〇〇〇
 発行人 阿部寛伝
 編集者 伊東堅純
 印刷所 ルンビニ社

「日本仏教文化会議」

の趣意について

我が日本は仏教国である。顕在、潜在の仏教徒を含めるとき、全国民の九〇パーセントが仏教徒であると申しても決して過言ではない。かくの如く自他共に許す仏教も、やもすれば民衆及び社会から遊離している状態である。

仏祖より今日迄相承した仏教を、この社会にいかにか強く生かすかが、学問的に思想的にまた実践的に急務であろう。

現代は機械文明の時代である。技術革新の波はオートメーションに発展し、より以上に進んだ機械による大量生産と大衆消費は、大衆社会の生活様式の均一化を促している。また一方企業や官僚組織は、益々巨大化し、人間は組織の奴隷とならんとしつつある。更にコミュニケーションの発達は、思想文化の画一化を促進しつつあり、現代社会は機械文明、マスコミ組織などによって、人々のパーソナリティに深い影響を与え、人々に過大の緊張感・焦燥感・欲求

不満・敗北感・無力感などを与えている。

現代文明を形成した精神的基礎は、中世的束縛に対して、新しい人間の自覚を確立した近代ヒューマニズムであったが、現代機械文明の発展に伴って、かえって人間性の喪失という結果をもたらすに至った。

我々は今や現代の新しいヒューマニズムをいかにして確立せんとするのであろうか。社会連帯性に基づいて社会的実践を通して真の自己を自覚し、真実の生活を求むべきである。また現代のヒューマニズムは機械文明科学技術に正しい目的を与える為にすぐれた知性を必要とする。

ここに科学を包容し、しかもこれを役し得る仏教の叡知が、現代の新しいヒューマニズムの確立に新たな照明を与えるのである。このような性格を有する現代の新しいヒューマニズム形成の基盤となり得るものこそ、東洋文化の根

底となった仏教思想であると確信する。

ここに全日本の仏教に関心を持つあらゆる分野の知識人・文化人の総力を結集して、仏教人口組織化を具体化せんとするは、このような客観的情勢に基づくものである。

かかる情勢を顧み、自らの本質を究め、それを内外に宣揚するは、我々の責務であり、又使命でなくてはならない。

ここに各位の積極的な参加と御協力を切に懇請してやまめ次第である。

昭和三十九年四月

日本仏教文化会議結成準備会
 会長 高階 麗仙

猶、創立総会を四月下旬東京に於て「道徳と仏教について」の議題のもとに開催各地方に於ても早急に仏教文化会議を開催予定、決定次第各位に通知。

全仏北海道講習会

講師及演題きまる

全仏では来る七月三日、四日の両日に亘って、北海道札幌市南三条西一丁目の大谷会館を会場にして、「第九回全仏講習会」を開催する(「四頁の要項参照」)が、各講師の演題が次のとおり決定した。なお全仏では各位の多数参加をのぞんでいる。

- ① 否定即肯定の宗教—真空妙有について— 大谷大学教授、文学博士舟橋一哉師
- ② 演題未定 神田寺主管 友松円諦師
- ③ 新興宗教の実態 元文部省宗務課専門員 井上恵行師
- ④ 日本文化と仏教 早大教授、文学博士 仁戸田六三郎氏
- ⑤ 新しい寺院の社会教育活動について 早大教授 伊藤道機氏

第十二回全日本仏教徒会議 静岡大会日程及大会順序

一、期日 六月一日(月)、二日(火)

二、会場 静岡市駿府会館及市公会堂

三、日程

〇 第一日(六月一日)

受付開始 午前八、〇〇(厳守)

開会式 // 九、〇〇

記念講話 // 一〇、〇〇

総会 // 一〇、四〇

アトラクション一、三〇

休憩・昼食

各部会(六月二日) 午後一、〇〇

〇 第二日(六月二日)

受付開始 午前八、三〇

総会 // 九、〇〇

閉会式 // 一一、〇〇

歓迎レセプションパーティー

観光出発 午前一一、三〇

午後二、〇〇

〇 各部会 午後一、〇〇より

〇 第二日(六月二日)於静岡市公会堂

〇 総会 午前九、〇〇

1 部会報告、質疑、討論、採決

2 宣言決議文発表

3 議長挨拶

〇 閉会式 午前一一、〇〇

1 閉式のことば

2 地元代表挨拶等

〇 歓迎レセプション午前

一一、三〇

〇 観光出発 午後二、〇〇

以上

委員長、日本体育会長竹田 恒徳氏

〇 総会 午前一〇、四〇

1 開会のことば 2 仮議長着席

3 議長団推薦 4 議長代表挨拶

5 議事運営委員選任

6 議事運営委員長挨拶及説明

7 全仏当局事務報告 8 議案上程

9 部会編成案内 10 部会長選出

11 大会宣言起草委員選出

12 日程説明

〇 東京オリンピック協賛運動のア

トラクション 午前一一、三〇

キングレコード歌手団

休憩・昼食

〇 各部会 午後一、〇〇より

〇 第二日(六月二日)於静岡市公会堂

〇 総会 午前九、〇〇

1 部会報告、質疑、討論、採決

2 宣言決議文発表

3 議長挨拶

〇 閉会式 午前一一、〇〇

1 閉式のことば

2 地元代表挨拶等

〇 歓迎レセプション午前

一一、三〇

〇 観光出発 午後二、〇〇

以上

△ △ △

なお全仏では同信各位の多数御参加をのぞんでいるので、早目に全仏組織局へ申込んでほしいと云っている。

印度大菩提会より贈らる 仏舍利奉迎にわく黒部市

ヴァ氏タルマパーラ記念事業に協力をアピール

既報のとおり、印度仏跡再興の父と仰がれているアナガリカ・タルマパーラ師生誕百周年記念事業に対する日本仏教徒の協力方をアピールするため来日中の、印度大菩提会事務総長D・ヴァリシハ氏は、三月二十二日午前八時横浜港入港のフランス船ウェトナム号で来日したが、同二十四日には全仏主催の歓迎午餐会に出席し、記念事業であるタルマパーラ仏教化研究所及仏教会館(宿泊完備)建設に対する日本仏教徒の協力を強く懇請した。この歓迎会には高階全仏会長以下役員など約七十名が出席し、仲々盛大であった。

なおヴァリシハ氏はその後、長途の旅による疲労もあって健康状態が思わしくないのを、東京の昭和医大で健康診断をうけていたが、三月二十九日の第一つばめ号で中山局長と共に西下し、大阪市では難波、津村両別院をはじめ、四天王寺等各山を参拝し、難波別院における大阪府仏教会(間野敬重師会長)主催の歓迎会に出席し、この記念事業についての協力方を要請し、同日車で京都へ向いた。その京都国際ホテルに投宿した。なお翌三十日は、東西両本願寺、妙心寺等を訪れ夫々挨拶をなし、東本願寺において新法主大谷光紹台下に会見し種々懇談した。なお同日夜は、全仏関西事務局(清谷得庵師事務総長)主催の飲

迎夕食会が東本願寺で開催され、訓導全仏理事長以下五十数名の各宗派代表者が参席し、ヴァリシハ氏は延々一時間に亘る挨拶をなし、参席者はその熱意に強くうたれた。なお三十一日は西本願寺門



(写真)全仏主催のヴァリシハ氏歓迎会のもよう

主大谷光照院下に会見し種々懇談をなし来日の目的をのべた。なおほかに京都の各宗派本山に参上する予定であったが、健康状態を考慮してすべて中止し、ホテルで休養をとった。

四月一日午前八時京都より車で大阪へ向い、大阪府知事左藤義詮氏に会見し種々懇談をなし、午後三時に京都へ帰り休養をとった。四月二日は午前八時半に比叡山

の天台宗務庁に清田総長を訪ね種々懇談し、午後には福井へ向い大本山永平寺参拝を急拠中止し、旅館で休養した。

四月三日は十一時四分福井駅より白鳥号で富山へ向う。十三時九分富山駅へ到着し、富山市長、駅長、黒部市長ら多数の出迎えをうけ仏舍利を奉持して富山県警のジープを先導し、黒部市へバレイドをなした。約四十五分後黒部市内へ入り、市内をくまなくパレードしたあと市役所で少憩し、仏舍利は一たん宿舎の曹洞禅宗天真寺へ仮安置された。仏舍利は黒部市長芦崎久治氏が先導で午後五時十分頃天真寺へ到着したが、熱烈な信徒約百名がこの到着をまちかねていた。本堂では仏舍利が安置され、尼僧の読経、ヴァリシハ氏の礼拝、読経があり厳肅な雰囲気の中に午後六時頃仮安置の法要を終えた。

四月四日は朝から猛烈な降雨で仏舍利奉迎行列の行進が危ぶまれていたが、十時頃にはすっきり止み、十時十五分頃天真寺から出発し、市の中心部にある小学校大講堂へ向った。商店街には紅白の幕がたれ下り、沿道には仏旗を持った人々が合掌し、その数は会場に近づくにつれてふくれ上り、市は文字通り、仏舍利奉迎一色に塗りつぶされた感があった。会場ステージには美しい花御堂が飾られ、場内は立すい余地ないほどの熱心な信徒約千五百名が詰めかけていた。三帰依文が黒部市仏教団の僧侶により唱えられ、ついで厳肅な奏楽の中をヴァリシハ氏に奉持された仏舍利は、黒部市長芦崎久治氏(仏舍利奉賛会会長)の手

に移され、同氏より花御堂に移された。終って富山県知事、同議長、同市長、大谷よし雄参議院議員、駐日印度大使館代表クーンシャルン文化部長らの祝辞があり、終ってヴァリシハ氏の挨拶などがあり、黒部市長の謝辞があった。十二時四十五分無事盛大裡に式を閉じた。なお一行は十二時五十五分から市役所ホールにおける市長主催の昼食会にのぞんだ。同夜七時から天真寺において、一般信徒に対し、「印度仏跡」の八ミリ映画を観覧したが、約百名の人々が参集した。

四月五日は十一時半に仏舍利を納めるパゴダ建設予定地である宮野山を視察し、前方に日本海、後方に立山連峰をのぞむ勝景の地に一行は非常に満足気であった。終ってパゴダが出来上るまで仏舍利が安置される徳法寺における「仏舍利奉迎、花まつり」に出席、黒部市仏教団僧侶出仕で読経のあと、大谷よし雄氏、ヴァリシハ氏の順で記念講演がなされ、超満員の信徒に深い感銘を与えた。午後三時車で宇奈月温泉へ向い、午後六時から同所における黒部市長主催夕食会に出席した。

四月六日は午前十時ホテルを車で発ち、金沢市へ向った。午後一時二十分に金沢市へ到着。直ちに東本願寺別院へ入り、禿禿住輪番らと会見し、記者会見、歓迎懇談会等へ出席し、午後六時より都ホテルで開催の、石川泉仏、金沢市仏、梵人出席の共催による歓迎夕食会に出席し、ヴァリシハ氏は来日の主旨をのべ、タルマパーラ師生誕百周年祭に対する協力方を強く訴えた。

なお一行は同日午後八時金沢発急行北陸号で帰路についた。このタルマパーラ師生誕百周年記念事業に要する資金は約一億五千万円に相当するもので、全仏でもこの内出来るだけの援助をすべきであるとの声もあるもので、近く具体化するものと思われる。

タルマパーラ師を偲ぶ集い

三月二十二日来日以来、黒部市へ仏舍利を奉持し、その後各地を巡りながら、タルマパーラ師生誕百周年記念事業に協力方を懇請している印度大菩提会事務総長ヴァリシハ氏は、目下ひきつづいて東京のアジア会館に止宿しているが、二十八日午後三時から東京築地本願寺に約七十名の訪印関係者、役員等が参集して、「タルマパーラ師を偲ぶ集い」を開催し、大師の冥福を祈り法要を執行するほか、ヴァリシハ氏からの話をきいた。なおヴァリシハ氏は五月二十五日頃帰国の予定である。

デンマークへ出発

親善の日本仏教代表団デンマークの聖書協会から、日本聖書協会(都田恒太郎総主事)を通じて、過般「バイブル」が全日本仏教会へ贈呈されたが、その答礼もあり今後は仏基西教界が相提携して混頓とした世界状勢をのり越えなければならぬと云う観点に立って、日本仏教代表団が近々デンマークのコペンハーゲンを訪れることになり、着々と準備がすすめられている。予定では六月十日空路羽田を出発し、北極圏州でデンマークへ入り、その後欧州各地を訪れたあと米国へ渡り、ハワイを経て帰国すると云う文字通りの世界一周旅行になるもようである。なおその際に答礼の贈物として「大蔵経」や各宗から貴重な仏教文獻が贈られると云われている。

